

総合 計画 体系	政策名	Ⅲ 地域で支えあうくらしづくり 《保健・医療・福祉》	施策主管課	長寿障がい福祉課
			施策統括課長	内田 孝夫
	施策名	18 高齢者福祉の充実	関係課	市民環境生活課,健康福祉総務課,地域包括支援C,健康推進課,保健福祉課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	65歳以上の市民	A	65歳以上の人口	人	実績	見込	21年度	13,990	13,760	13,771	14,035		
22年度													
23年度									13,771	13,965	14,048	14,197	
24年度													
B					実績	見込	21年度						
							22年度						
							23年度						
							24年度						
C					実績	見込	21年度						
							22年度						
							23年度						
							24年度						
目的	②意図(どのような状態にするのか)		成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	生きがいを持って、いきいきと暮らす。	A	生きがいを感じている高齢者の割合	%	実績	目標	21年度	65.5	75.7	78.7	75.2		
22年度													
B		いきいきと暮らしている高齢者の割合	%	実績	目標	21年度	65.1	70.1	67.4	69.3			
						22年度							
C	65歳平均自立期間(男性/女性)	年	実績	目標	21年度	19/22(見込)	19/22	17.5/21	17.5/21.2				
					22年度								
D	要介護認定率※認定者数/1号被保険者数	%	実績	目標	21年度	16.9	18.0	18.6	19.1				
					22年度								
成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)			A)生きがいをもって暮らしているかどうかは個々の意識の問題であるため、アンケート調査で把握すべきだと考えた。B)いきいきと暮らしているかどうかは、本人ではなく、周囲の人が判断した方がより正確に把握できると考えた。C・D)生きがいをもっていきいきと暮らすことができれば、平均自立期間が伸び、介護予防にもつながると考えた。※雲南市は、前回調査では雲南市の平均寿命は山陰でトップ、全国でも上位であったため、参考指標になると考えた。										
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)			A)市民アンケート調査「あなたは生きがいを持って生活していますか?」「どんなことが生きがいですか?」(対象:高齢者)。B)市民アンケート調査「あなたの回りの高齢者はいきいきと暮らしていると思いますか?」(C)鳥根県保健環境科学研究所(3年に1回調査、鳥根県独自算出)。H18・H20は雲南保健所で参考値算出(単年の要介護者率を使い、死亡は該当当年中心の5年平均、(H19とH20は4年と3年平均)。D)長寿障がい福祉課(認定者数/1号被保険者数、住所地特例含む)。※)厚生労働省「市区町村別生命表」→5年に1回。山陰でトップ、全国でも上位。										
目標設定とその根拠(基本計画策定時)			A)生きがいを感じている高齢者の割合について、成行値は現状で推移すると予測する。目標値は様々な対策を実施することで、最終年度で5ポイント程度上げることを目指し、毎年上昇させていくこととする。B)いきいきと暮らしている高齢者の割合について、成行値は現状で推移すると予測する。目標値は様々な対策を実施することで、最終年度で5ポイント程度上げることを目指し、毎年上昇させていくこととする。C)平均自立期間:これまでの動向を踏まえ、少しずつ伸びていくと考えられるが、様々な取り組みを進めることにより、伸び率を大きくし、毎年0.25ポイントずつの増加を目指すこととする。D)要介護認定率について、成行値はこれまでの傾向からやや上昇傾向にあると予測する。目的値は介護予防の観点から、要介護者の増加は望むものではなく、適正な認定のもと介護予防を進め、現状水準の維持とする。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 社会参加活動の促進	65歳以上の市民	地域とのつながりをもつ。	地域と交流があると感じる市民の割合	%	実績	66.1	76.0	75.1	71.2		
② 自立支援とサービスの充実	施設に入所していない65歳以上の市民	いきいきと暮らす。	介護サービスを受けている高齢者の割合・介護認定者のうち認知症の割合	%	実績	15.9 64.0	16.9 63.3	17.3 66.4	17.4 64.2		
③ 老人福祉施設等の充実	施設入所者	いきいきと暮らす。	老人福祉施設等の入所待機者数(実数)	人	実績	558	506	571	572		
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
① 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ●趣味や就労への意欲を持ち続ける。 ●地域内での声かけ、見守りなど、高齢者同士の地域相互扶助のネットワークを構築する。 ●世代間交流・地域での交流活動に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康づくり活動、軽スポーツ等の普及活動を支援する。 ●地域相互扶助のネットワークの構築や、世代間交流・地域での交流活動を支援する。 ●就労活動を支援する。 ●高齢者の経験や技能、資格などを活かせる環境をつくる。
② 状況変化	<p>A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)</p> <p>○全国の後期高齢者が2025年にはピークを向かえることから、国は2025年問題として、現在少子高齢化対策を強化している。(24時間訪問サービス体制・看護職員と介護職員の連携、介護従事者の人材確保、包括支援センターのマネジメント強化、高齢者専用住宅、小規模特養等整備。) ○国において、介護保険の予防給付制度を見直す方向で検討されている。○老人クラブ運営は、価値観や趣味の多様化、地域での活動の在り方が検証されることで見直しも行われている。</p>	<p>B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?</p> <p>○在宅サービス(デイサービス、訪問介護、ショートステイ)の充実を望まれている。</p> <p>○介護事業所へのニーズが多様化している。</p> <p>○施設入所の待機期間短縮及び待機者縮減を求められている。</p> <p>○高齢者の移動手段の確保、充実や買い物支援が求められている。</p>

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○要介護認定率は、介護予防を重点的に行っているため、県平均と比較して低い。(県20.7%) ○老人福祉施設等の入所待機者数は、572人となっている。高齢者1万人あたりの居宅からの待機者数で他団体比較すると、松江圏域99人、出雲市102人、雲南広域139人であり人口規模からすると多い。 以上を、総合的に判断すると同水準と考える。

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《18 高齢者福祉の充実》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○生きがいを感じている高齢者の割合は3.5%減少、いきいきと暮らしている高齢者の割合は1.9%増加、地域と交流があると感じる割合は3.9%減少となっており、市民アンケートを行った全ての項目では、ある程度の高い水準で推移していると判断する。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input checked="" type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○生きがいを感じている高齢者の割合、いきいきと暮らしている高齢者の割合、いずれも目標値を達成し、地域と交流があると感じる市民の割合も71.2%となった。 ○いきいきサロンの開設箇所は多く、転倒予防教室や通所型介護予防事業の充実を図った。
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 社会参加活動の促進	・雲南市シルバー人材センター補助事業により、高齢者の就労の場の確保がなされ、社会参加を促進した。 ・高齢者いきいきサロンへ多くの方が参加された。 ・地域自主組織の活動を支援する中で、高齢者の社会参加の在り方の見直す組織があった。
② 自立支援とサービスの充実	・認知症地域支援体制構築事業により、認知症の正しい知識の普及・啓発、早期発見のためのもの忘れ検診に取り組んだ。・特定高齢者介護予防事業により、要介護状態への移行防止に取り組んだ。・福祉タクシー料金助成事業のほか、高齢者等タクシー利用料金助成事業を試行的に実施し、高齢者の移動手段の確保に取り組んだ。・緊急通報システムの設置について助成を行い、随時機器が更新されている。
③ 老人福祉施設等の充実	・第5期介護保険事業計画に基づき、特別養護老人ホーム(50床分)及び地域密着型サービス3事業所(小規模多機能型居宅介護1、認知症対応型共同生活介護2)の事業者の公募、選定を行った。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○高齢者が、住み慣れた地域で、地域とつながりをもっていきいきと暮らせる社会を目指していく必要がある。	○高齢者の社会参加を促すとともに、地域で自立した生活ができるよう取り組んでいく。
基本事業	① 社会参加活動の促進	○高齢者の就労の場を確保していく必要がある。 ○高齢者の社会参加を促す取り組みが必要がある。
	② 自立支援とサービスの充実	○認知症の早期発見・早期治療に取り組むとともに予防活動を行っていく必要がある。○要介護状態への効果的な移行防止策が必要である。○地域の人材を育成・確保していく必要がある。○移動手段や買い物に不便を感じている高齢者の利便性を向上する必要がある。
	③ 老人福祉施設等の充実	○ニーズにあった介護サービスの充実が必要である。
	④	
	⑤	